

地域医療学

科目責任者 千種雄一
学年・学期 1学年・1学期

I. 前文

2025年には、団塊の世代が75歳を迎え、自宅や介護施設で訪問診療を受ける人が約100万人になることが予想される。そのため、2025年問題として医療・介護の需要が最大化への対策が必要となる。そこで、国は地域医療構想を計画し、地域完結型医療である地域包括ケアシステムの構築を目指している。したがって、医師および医療従事者は、地域社会において、チームとして多職種で連携し、より良質な患者中心の医療サービスを提供することが責務となっている。そのような状況のもと、医学生にとって少子高齢化や国際化など様々な問題を抱える地域医療の現状を学ぶことは非常に重要である。医師を目指す諸君は、本講義を通して現状を理解するとともに医学生として求められる地域貢献や国際貢献について考え、積極的に社会貢献する心を育成することを目的とする。なお、本講義は、地域の各施設において実習を行う、コミュニティヘルスインターンシップ（CHI）をより効果的にする目的もある。

II. 担当教員

千種雄一	(医学部 特任教授, 地域医療教育センター)
橋本充代	(地域医療教育センター 講師)
住友和弘	(東北医科薬科大学 地域医療学教室・総合診療科)
海老名英治	(栃木県保健福祉部長)
名知仁子	(ミャンマー ファミリー・クリニックと菜園の会 代表)
加藤幹保	(日本LGBT協会理事)
遠藤薫	(臨床教授 サンフラワークリニック 院長)
小山宏之	(栃木県立栃木特別支援学校)
種市ひろみ	(東都大学 幕張ヒューマンケア学部)
渡辺邦彦	(臨床教授 在宅ホスピス医)
駒橋徹	(臨床教授 鹿沼病院 院長)

III. 一般学習目標

地域医療の現状を理解するとともに、各施設における役割や取り組みを学ぶ。

IV. 学修の到達目標

- 1) 地域医療とは何かを説明できる。
- 2) 地域における施設（医療機関、福祉施設）の種類及び特性について説明できる。
- 3) 地域における医療・保健・福祉活動を説明できる。
- 4) 発展途上国における医療支援の実際を概説できる。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者
1	5	25	月	6	地域医療概論	住友和弘
2	6	5	金	6	高齢者を対象とする施設と介護	種市ひろみ
3		10	水	6	性的マイノリティと医療	加藤幹保

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
4	6	12	金	5-6	学外実習の基礎知識 「社会福祉施設とは」 「特別支援学校とは」	遠 藤 薫 小 山 宏 之
5		18	木	5	栃木県の地域医療行政	海老名 英 治
6		19	金	5-6	「地域における精神科医療」	駒 橋 徹
7		25	木	6	在宅ホスピスの現状	渡 辺 邦 彦
8	7	1	水	5	地域医療の原点とは何か? ～ミャンマーの保健医療活動を通じて～	名 知 仁 子

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

出席状況と授業態度及び試験で評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

必要に応じて指示する。

VIII. 質問への対応方法

基本的に講義中か講義終了後に質問する。ただし、その後、事後学習で質問が出てきた場合は、科目責任者の地域医療教育センター千種雄一および橋本充代（内線2196）が仲介し講義担当者に連絡を取る。地域医療教育センターのオフィスアワーは、平日の9:00～17:00とする。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験実施。

XI. 求められる事前学習，事後学習

シラバス別冊に記載あり。 事前2時間，事後2時間。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）